

4 4 究極的リアリズム描写と時間帯表現

聖マタイの召命 カラヴァッジョ

真鍋友範

2023

はじめに

今回は、カラヴァッジョの描いた『聖マタイの召命』の美術史的意義について、再定義したい。

一般的なバロック美術のイメージを定義すると、【絵画・彫刻・建築の融合した劇場空間】とされている。

特にカラヴァッジョがバロック絵画において果たした役割は、特筆に値する特徴を備えていたと言える。

もちろんカラヴァッジョも過去の画家たちの影響を深く受け継ぎ、その事実が新しい表現の確立につながっていることも事実だ。

レオナルド・ダ・ヴィンチやジョルジョーネは、特に強い影響をカラヴァッジョにもたらしたのだが、この辺りも本文内で明らかにしたい。

- 1 描写レベルが、ルネサンス期絵画とは段違いに進化した写實的絵画
- 2 連続した場面として読み解く必要のある絵画

2013年、この事実を発見して以来、上記2点こそ、バロック絵画を。意味付ける重要な要素と感じている。

では、順に説明しよう。

- 1 描写レベルが、ルネサンス期絵画とは段違いに進化した写實的絵画

まだ写真のない時代。写實的絵画の描写には、現代人の考えるレベルをはるかに超えた意味があった。

では、具体的にそこを明らかにしよう。



《聖マタイの召命》 カラヴァッジョ

1) 質問するヒゲ男の【左手の親指】

見逃してはいけないのは、【この親指はなぜ立っているのか】、だ。彼の左手の指は、連続動作だ。【イエスに対して質問している。】

『探している人は、私ですか。となりの男ですか。』

まず、親指を立て自身の胸に向けて指して、次に、隣のメガネの収税人を中指で指差した連続動作の瞬間だ。

だから、親指が立っているのだ。

2) 質問を受けたイエスの受け入れの意志を示す【開いた左手の平】

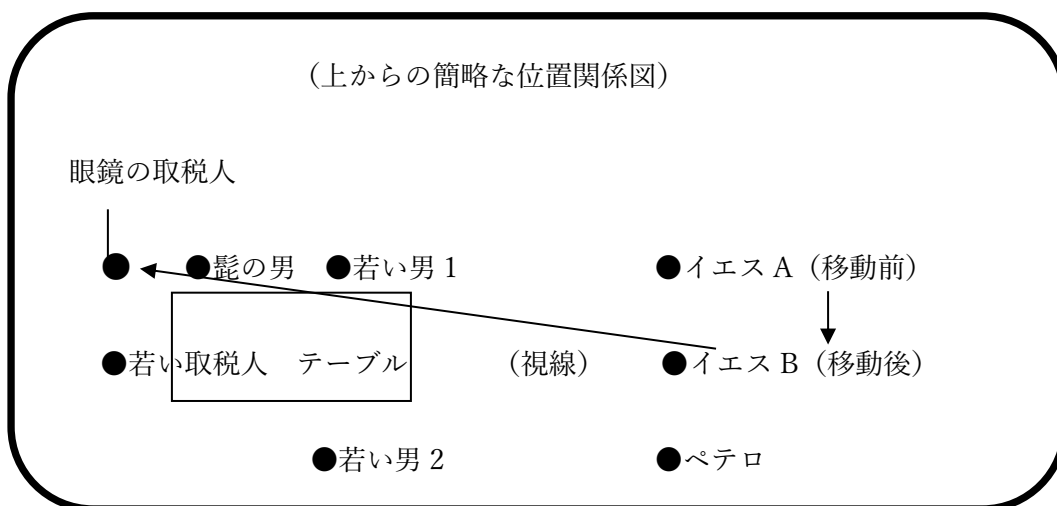
なぜ、イエスの【開いた左手の平が描かれたのか。】

ヒゲ男からの【質問を受けたイエスの質問受容の意志を表す為】だ。

3) なぜイエスの右足は、左側に一步踏み出しているのか。

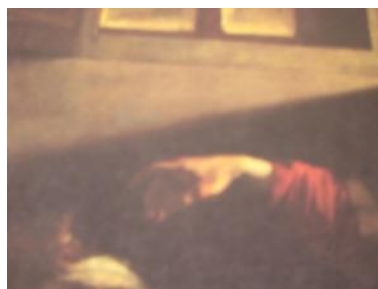
答えようとしたイエスの立ち位置からは、目的の人物がよく見えなかった為、わざわざ左側に右足を一步踏み出して、立ち位置を移動した。立ち位置を移動したことで、メガネの取税人の顔が見える位置となった。

つまり、イエスは視線移動する必要があった。(下図)



4) なぜ、イエスの右手は指差し動作ではないのか。

まず、イエスは指差している、と判断する人は、もう一度この作品をじっくり見てもらいたい。



よく見てください。指が伸びていません。手首も折れています。力が込められていないのです。

【人を指さす時、指先を曲げて指さす人は世界中に一人もいません。】相手を見て、まっすぐ中指を伸ばします。

ルネサンスのダ・ヴィンチの名画《岩窟の聖母》の中の天使だっ
てまっすぐ伸ばした中指で幼児イエスを指さしています。

イエスは、【腕を回す動作】で、『あなたの向こう側の人だ』と答えたのです。

実際に同様に真似てみれば、納得できるはずです。

なぜイエスがマタイを指差さなかったかは、もう一度鳥瞰図を見れば分かるでしょう。

質問したヒゲ男に対し、向こう側の人であることを明確に示す為だったのです。ここで指さしていたら、誰を読んでいるかが不明確なのです。腕を回すことで、明確に対象の人物がメガネの収税人に限定されているのです。

これら1)から4)に至る動作の写実的表現を読み取ることで、正確に呼び出された人物は、眼鏡の老齢の収税者であることがわかります。

この正確な動作の写実乗車は、ルネサンス期には求められていなかったのです。手持ちのデッサン集から適当にその場面に当てはまるポーズを描くというルネサンス・スタイルとは決別した描写スタイルへという大変化があったのです。

このカラヴァッジョの究極的リアリズム表現は、当時の画家たちに衝撃を与えたのです。

2 連続した場面（時間帯表現）として読み解く必要のある絵画

そして、もう一つの特徴は時間帯表現です。これらの1)から4)に至る動作を、順につなげ、時間帯の表現として、動画を読み解いていく必要があったのが、バロック絵画だったのです。

この表現は、カラヴァッジョが、ミラノの《最後の晚餐》から学び取った結果を、カラヴァッジョ流に応用進化させたと理解できます。

まとめますと、バロック絵画の本質は、究極的リアリズム描写と時間

帯表現による動画的絵画表現への大改革にその特徴を見ることができます。

カラヴァッジョに影響されたバロック絵画には、これらの特徴を踏襲したものがあありますが、詳しくは改めて紹介したいと思います。